

退任のごあいさつ

前勝山市長 山岸 正裕



昨年12月25日をもって勝山市長を退任いたしました。平成12年12月に就任以来5期20年にわたって、市民の皆さまには、ご支援を賜り誠に有難うございました。

この間、誇りと活力に満ちたふるさと勝山を創るために、市民と一丸となって、エコミュージアムやジオパーク事業によるまちづくりを展開してまいりました。勝山市の各地域の歴史や、伝統文化、遺跡など、地域が大事にしてきたものの再発見と活用によって、地域の活力が生まれ、平成の大合併を選択することなく、持続的発展につなげることができました。

エコミュージアム事業は地域を超えて勝山市全体にも広がり、「勝山をきれいにする運動」や「クリーンアップ九頭竜川」などが展開され、「エコ環境都市」として世界で9番目、日本で一番クリーンなまちとして米フォーブス電子版に掲載され、全小中学校ESD（持続可能発展教育）とユネスコスクール加盟にもつながりました。また、「子育て支援日本一」を目指した出産、子育て学童支援にも取り組みました。

年間90万人を超える観光客を迎える県立恐竜博物館をメインにした観光施策にも取り組み、観光の産業化を目指して、日本版DMOの観光まちづくり株式会社を勝山商工会議所を主体に設立して、花月楼を復活し、現在、同社はジオターミナルの飲食物販、道の駅の指定管理者となっています。

歴史を誇る白山平泉寺は、平成29年に白山開山1300年を迎えて、年間約36万人の人でにぎわいました。令和元年には、一乗谷朝倉氏遺跡とともに日本遺産に認定され、幽玄で清冽な世界に人気が高まっています。

また、廃線の危機にあった電車を「えちぜん鉄道」として復活し、強い市民要望があった「すこやか」や「ジオアリーナ」「勝山駅舎」等を整備し、本町通りや、大清水の再整備を行い、遺産の保存と活用施設「はたや記念館ゆめおーれ勝山」「歴史探遊館まほろば」等を整備してきました。一方、行財政改革に取り組んできた結果、市民福祉を損なうことなく、市債を減少させ、財政調整基金を増やして任期を終えることができました。

今、新型コロナウイルスの感染拡大によって、生活、仕事環境、地域社会、およびコミュニケーションのあり方までが変化を求められています。

水上新市長のもと、勝山市はこのような世界の変化を正面から受け止め、次の時代へのチャンスにつなげて、さらに発展することを願っています。

就任ならびに 新年のごあいさつ

勝山市長 水上 実喜夫



新年あけましておめでとうございます。

このたびの選挙におきまして、市民の皆さまの温かいご支援とご支持をいただき、勝山市長の任に就かせていただきました。市民の皆さまからお寄せいただいた期待と信頼にお応えすべく、社会の変化に対応できる安全安心な「新しい勝山市」を共に創り上げていくという使命感を持って、市政運営に精励してまいります。

さて、終息への道筋が見えない新型コロナウイルスによる社会不安が世界を覆っています。また、本市においても全国と同様に少子高齢化に歯止めがかからず、人口の減少と人口構成の変化が進行しています。

こうした社会状況の変化、時代の変遷の中で、新型コロナウイルス感染症対策・地域経済対策をはじめ、観光の産業化への挑戦、行政全般へのIT活用、防災減災対策、社会インフラの維持、小中・高等学校教育の振興、高齢者の生きがいと福祉・子育て支援策の一層の充実、安定した産業基盤の整備、雇用の確保、地域コミュニティの維持と活性化、健康長寿の推進など、勝山市には様々な課題が山積しております。

これらの課題解決に向けては、新しい勝山の実現に向けて手を携えていく、市議会議員・区長会・各種団体・事業者の皆さま、そして市職員との信頼関係の構築が欠かせません。第6次勝山市総合計画の策定に向けた座談会などを通じて、新しい勝山を実現するため、幅広く市民の皆さまの声に耳をかたむけ市政に反映してまいります。

そして、勝山市の歴史・伝統・文化を継承し、活用していく人材を育て、子育て世代が安心して暮らせる環境づくり、地元で若者や障がい者、すべてのジェンダーが活躍できる環境整備を進め、「人と企業に選ばれるまちづくり」の実現を目指してまいります。

全体の奉仕者として、市民福祉の向上に前向きに取り組んでいる市職員と共に、力を尽くして市政運営に取り組んでまいりますので、前任の山岸市長同様に市民の皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市民の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げ、就任の挨拶といたします。